

演 題 名	<p style="text-align: center;"><i>Staphylococcus aureus</i>(SA)による 乳房炎発生農家の搾乳衛生対策</p>		
発 表 者 氏 名	唐 澤 哲 哉	所 属	飯 田 家 畜 保 健 衛 生 所
<p>管内A農場（経産牛35頭）においてバルク乳体細胞数が50万/mlを超え乳質が悪化したため、平成15年6月にバルク乳細菌検査を実施し、SAが分離された。獣医師、出荷先担当者、家保の3者で搾乳立会し、搾乳手順のチェック、全搾乳牛のCMT変法検査、乳汁細菌検査等を行った。その結果、プレとポストディッピングに同一容器を使用、CMT陽性が左側乳房に偏在、7頭のSA感染等の問題点が確認された。作業改善として、ディッピング容器の区別、ライナーのチェック、マシンストリップの禁止を指導した。またSA対策としては、感染牛は最後に搾乳、プレディッピングにはスプレーを使用、泌乳期治療で治癒しなければ盲乳処置、乾乳期治療の徹底、乾乳期明けにSAの有無の確認、の5項目を重点とした。その後、体細胞数は20万台に低下し、12月に搾乳立会検査ではSA感染牛が2頭に減少した。</p>			